

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H00975

研究課題名(和文) 東アジア「知のプラットフォーム」の現状に関する研究

研究課題名(英文) Research on "Knowledge Platforms" in East Asia

研究代表者

平野 健一郎 (Hirano, Kenichiro)

早稲田大学・政治経済学術院・名誉教授

研究者番号：40012463

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 17,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、主として留学に端を発する東アジアの「知のプラットフォーム」の実相を明らかにした。「知のプラットフォーム」とは、市民が産み出した知が国境を越えて共有される「場」である。この「場」には、国境に沿って亀裂が走る東アジアに平和と安定をもたらす可能性を見出せる。

本研究は、知識人の「越境的ネットワーク」が、東アジアにおけるさまざまな境界を越えて、どのように形成されてきたのか、またそうしたネットワークがどのような知(「越境知」)を生み出したのかを、次の3つの方法：(1)歴史的な考察、(2)研究者個人の「成長」に即した考察、(3)社会的アクターに注目した考察により明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、東アジアから日本への留学の成果を、「知のプラットフォーム」という新しい視点から考察する研究でもあった。先行研究において留学の成果は、次の2つの視点から評価されるのが一般的である。第一に、留学が外交に準ずるものとみなされ、国家的成果として評価される。第二に留学が個人的なものとみなされ、留学生本人の地位の上昇等という観点で評価される。これに対して本研究は、留学の成果を「社会的貢献」という観点で評価する。本研究は、東アジアから日本への留学(生)が、知的交流と知の生産を通じて、東アジアの人びとのよりよい生活に貢献したことを実証的に示す。

研究成果の概要(英文)： This study reveals the reality of "knowledge platforms" in East Asia that originate primarily in the act of studying abroad. A "knowledge platform" is a "place" where knowledge produced by citizens is shared across national borders. This "platform" has the potential to bring peace and stability to East Asia, where fissures run along national borders.

This study examines how "transnational networks" of intellectuals have been formed in East Asia that transcend (1) national borders, (2) academic disciplines, (3) generations, and (4) the boundaries between researchers and practitioners, and what kind of knowledge ("transnational knowledge") these networks have produced. The following three methods are used: (1) historical study, (2) study in line with the "development" of individual researchers, and (3) study focusing on social actors.

研究分野：東アジア国際関係

キーワード：トランスナショナル 留学生 知的交流 歴史

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、東アジアの「知のプラットフォーム」の実相を明らかにすることを目的として開始された。「知のプラットフォーム」とは、市民が産み出した知が国境を越えて共有される〈場〉のことを指す。本研究をこうした目的で開始したのは、国境に沿って亀裂が走る東アジアに平和と安定をもたらす可能性を、「知のプラットフォーム」という空間に見出せると期待したからである。

国境を越える市民の交流の知的蓄積に「知のプラットフォーム」という名を与える着想は、国連がミレニアム開発目標を効果的に達成するために、多様なステークホルダーを繋ぎ知的交流を促進する「持続可能な開発のための知のプラットフォーム (Knowledge Platform)」を運営していることから得た。この国連の取り組みは、グローバル化が進展する現代における諸課題の解決には、市民が様々な境界を越えて繋がり共に生み出す知が一般的に不可欠であることを示唆する。

研究代表者の平野健一郎は、東アジアの人びとが国境を越えて織りなす重層的な関係に関する知見を長年にわたり発表してきた。例えば、21世紀 COE「現代アジア学の創生」プロジェクト（2002 から 2006 年）においては、「東アジア共同体」についての考察を上述のような観点から深め、その成果を『東アジア共同体の構築（全 4 巻、毛里和子編集代表）』の第 3 巻『国際移動と社会変容』（平野ほか編、岩波書店、2007 年）としてまとめた。

研究分担者であり本研究の副代表として位置付けられた劉傑は、『国境を越える歴史認識：日中対話の試み』（東京大学出版会、2006 年）の編集に代表されるように、東アジアにおける敵対的な国家間関係の火種であるところの歴史認識にかかわる知的交流の最前線に立ち、成果を発表し続けてきた。彼がなす知的交流の特徴は、国家から相対的に自由な知的交流であるところにある。「知のプラットフォーム」が東アジアにおいてすでに存在することを、彼が体現している。

本研究チームは、(1)日本の大学を拠点に活躍する東アジア出身の研究者、(2)当初は留学生として渡日してきた彼らを育てた研究者、そして、(3)東アジア出身の研究者に育てられた研究者のおおよそ三世代の研究者で結成した。すなわち本研究は、これまで述べてきたような問題意識に基づいて結成された当事者研究としての性格を有する。本研究チームは、困難な国家間関係を背景としながらも、市民として自律的に活動しようとする東アジア出身の知識人の姿を捉えるべく、本研究に着手した。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、東アジアにおける「知のプラットフォーム」の現状を、次の 2 つの観点から考察することである。第一に、東アジアにおいて(1)国境を越え、(2)学問領域を越え、(3)世代を越え、(4)研究者と実務者の境界を越えるような、知識人の「越境的ネットワーク」が、どのように形成されてきたのか、第二に、そうしたネットワークがどのような知（「越境知」）を生み出したのか、である。

本研究はこうした考察を、東アジア出身の元留日学生に焦点を合わせて行った。したがって本研究は、東アジアから日本への留学の成果を、「知のプラットフォーム」という新しい視点から考察する研究でもある。先行研究において留学の成果は、次の 2 つの視点から評価されるのが一般的である。第一に、留学が外交に準ずるものとみなされ、国家的成果として評価される。第二に留学が個人的なものとみなされ、留学生本人の地位の上昇等という観点で評価される。これに対して本研究は、留学の成果を「社会的貢献」という観点で評価する。本研究を通じて、東アジアから日本への留学（生）が、知的交流と知の生産を通じて、東アジアの人びとのよりよい生活に貢献したことが明らかになる。

## 3. 研究の方法

本研究は、東アジアからの（元）留日学生が形作る「知のプラットフォーム」に次の 3 つの方法で接近した。第一に歴史的な考察、第二に研究者個人の「成長」に即した考察、第三に社会的アクターに注目した考察である。

### 〔歴史的考察〕

東アジア出身者の日本留学と「知のプラットフォーム」を近代と現代という時代に区別して、対比的に論じた。こうした考察は、平野健一郎と劉傑が担当した。この方法によって明らかになったのは、「知のプラットフォーム」が近代にも存在したことである。東アジアから日本への留学が始まった 20 世紀初頭から、（元）留日学生は東アジアの平和と安定に自らの知を持って貢献しようとしてきたことが確認できた。しかし、近代という時代の「知」（「近代知」）は、国家の近代化のための知であり、国益ならびに国家間競争と切り離しがたく結びついていたことに注意を払う必要があることも指摘した。これに対して、グローバル化が進む現代において、（元）留日学生がどのような「知」を、いかなる過程を経て生産しているのかは、次に述べるアプロー

チによって明らかにすることにした。

#### [研究者個人に着目した考察]

1980年代から90年代にかけて日本に留学した研究者個人の業績、認識等をもとに、東アジア（中国、台湾、韓国）出身者の「知のプラットフォーム」への貢献を明らかにした。こうした考察は、鄭成、野口真広、金香男、杉村美紀、森川裕二、白石さやが担当した。留学開始から「知のプラットフォーム」にコミットするまでの研究者個人の「段階的成長」の考察については、上述の平野の近代に関する研究から導出された次の仮説を分析枠組みとした。

#### ■ 知のプラットフォーム形成：ステージ論

ステージ	現象	内容／効果	テーマの特徴
1	留学開始	振り分け⇒同類の集合	同郷同胞の先輩・後輩関係の形成
2	留学中	同類の国際的集合	国際的な同輩関係の形成
3	専門化の開始	専門的活動の開始（研究・教育・著述・学会）	留学成果の初期的拡散
4	専門的活動	円熟した専門的活動 専門的地位の上昇	専門知の拡散伝達 国際的連携活動
5	社会的活動	リーダー的活動	多面的超域的活動 社会的役割の遂行

このアプローチに主に関連して、本研究チームは、(元)留日学生を対象としたインタビュー調査を行った。チーム全体による共同インタビューが12件（対面/オンライン/ハイブリッド研究会として開催。うち1件は、劉傑がインタビューイー）、平野健一郎が東京大学で指導した元ゼミ生（9名、うち6名が東アジア出身留学生（当時））のオンライン対談、その他各自論文執筆のために2から3名を対象に個別インタビューを実施した。

#### [社会的アクターの考察]

1980年代後半から1990年代前半にかけて多く設立された、留学生支援を実務とする留学生奨学財団に焦点を合わせて、「知のプラットフォーム」を考察した。事例として取り上げたのは、劉傑が知的交流活動の一つの舞台としている渥美国際交流財団である。渥美国際交流財団は、留学生諸個人の生活支援を超えて、「知のプラットフォーム」を支えるに至っている。その過程の分析を加藤恵美が担当した。

## 4. 研究成果

本研究のまとめとして、報告書を作成した。今後、この報告書を論文集として出版する準備に取り掛かる。以下では、その報告書の内容に従い、研究成果を報告する。なお、その他の研究成果は、業績リストを参照されたい。

#### 平野健一郎「近現代東アジアにおける「知のプラットフォーム」の機序：歴史的考察」

近代と現代の「留学」と「知のプラットフォーム」を対比しながら、文化触変論などを補助線に検討し、現代の「知のプラットフォーム」の特徴と意義を理論的に提示した。近代の「留学」と「知のプラットフォーム」については、黄尊三、さねとうけいしゅう・佐藤三郎訳『清国人日本留学日記：一九〇五―一九一二年』（東方書店、1986年）と見城悌治『留学生は近代日本で何を学んだのか：医薬・園芸・デザイン・師範』（日本経済評論社、2018年）などの精読を通じて明らかにした。

#### 劉傑「対立のなかの「知のプラットフォーム」：日中関係150年と学知」

19世紀末から始まった日中対立の構造は解消されていないものの、日中戦争以降は危機的な敵対に至っていないのは、1980年代から急拡大した日本留学が「知のプラットフォーム」を多数形成させ、東アジアの平和と安定に静かな貢献を行なっているからだと主張した。その一方で、日中戦争の勃発を可能な限り引き伸ばしたのも留日学生による「知のプラットフォーム」であったことも指摘した。その具体例として「中華学芸社」とその機関誌『学芸』（1917年創刊）、林語堂が編集長を務めた文藝誌『宇宙風』（1935年創刊）を紹介した。

#### 鄭成「知識人の連帯感形成における留学生活の役割：北京外国語大学日本学研究センター卒業生への考察を通じて」

鄭成の同期生を対象としたインタビュー調査に基づく当事者研究である。20名の同期生のうち、日本の大学で博士号を取得した後、日本で大学教員になった鄭成とは対照的に、中国に帰国して大学教員になった3名の研究者の、日中間の知的交流への態度と認識を分析した。この研究

の結果、留学は知識人同士の国境を越えた連帯感の形成を促進する効果を持っているといえるが、なかには、中国の経済発展や学術投資の積極化を背景に、日中間の知的交流に意義を見出さない研究者もいることが明らかになった。

#### 野口真広「知のプラットフォームとしての台湾史アーカイブ：呉密察によるアーカイブ形成を中心に」

1984年から1990年にかけて東京大学に留学し修士号と博士号を取得した台湾史のパイオニアである呉密察の業績と認識を中心に分析した。彼のライフワークである台湾史のアーカイブ化は、SDGs（持続可能な社会のための開発目標）の目標14「すべての人々に包括的かつ質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」という観点から評価できるものである。野口は、前述の「知のプラットフォーム形成：ステージ論」を分析枠組みとして、呉密察がどのような人々との出会いや学びの機会を得ることを通じて、「知のプラットフォーム」の形成に至ったのかを明らかにした。

#### 金香男「韓国人留学生と「知のプラットフォーム」の現状：移民問題をめぐる「超域知」と留学経験」

1988年から1994年にかけて慶應大学に留学し修士号と博士号を取得した、日韓知的交流の中心人物である梁起豪の業績と認識を中心に分析した。政治学者である彼の目下の問題意識は日韓の移民問題であり、彼の活動の成果はSDGsの目標10「人や国の不平等をなくそう」という観点から評価できるものである。金も、前述の「知のプラットフォーム形成：ステージ論」を分析枠組みとして、梁起豪がどのような人々との出会いや学びの機会を得ることを通じて、「知のプラットフォーム」の形成に至ったのかを明らかにした。

#### 杉村美紀「越境知を育む「知のプラットフォーム」の考察：環境問題をめぐる国際共同研究の展開と留学経験」

SDGsの全てと連動する学際的な領域である「環境問題」に関わる「知のプラットフォーム」について、1989年にT大学大学院に入学し1994年に博士号を取得の上、現在はS大学で教員をしているA教授と、1982年にC大学大学院に入学し、修士号と博士号を取得後、1998年に帰国し、現在はKS大学の教員をしているT教授（共に中国出身）に対するインタビュー調査に基づき、分析を行った。この研究を通じて、「知のプラットフォーム」にとって「知」は重要であるが、それを維持発展させるためには倫理観・価値観の共有が重要な働きをなすことが明らかになった。

#### 加藤恵美「留学生奨学財団が支える知のプラットフォーム：「関ログローバル研究会」の事例研究」

渥美国際交流財団が支え当財団の元奨学生が運営する、「地球市民の育成」を目的とした「関ログローバル研究会」の事例研究を行った。留学生の生活支援を行う財団と（元奨学生でありながらすでに）自立した研究者という立場の違いを越えて、共に新しい「知」を生み出すためには、互いを尊敬し合う対等な人間関係の構築が不可欠であることを指摘した。また異なる立場を架橋しつつ形成される知的ネットワークは、今までにない新しい見方を生み出し、当問題の社会における認識に一石を投じることができることも指摘した。

以上

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計41件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 Hirano Kenichiro (平野健一郎)	4. 巻 51
2. 論文標題 "On the Toyo Bunko Version of The First Voyage of the English to the Islands of Japan by John Saris, 1617: An Annotation Attached to the Photocopy of the Book, published for Toyo Bunko by Bensei Shuppan Publishers, Tokyo, 2016"	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東洋文庫『書報』	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 劉傑	4. 巻 25
2. 論文標題 「中国の「一帯一路」政策とアジアの「知の共同体」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『學術の動向』	6. 最初と最後の頁 18-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 劉傑	4. 巻 2022-2
2. 論文標題 「近代中国の対外関係と東アジア」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『近代東アジアの安全保障環境』	6. 最初と最後の頁 46 - 61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 劉傑	4. 巻 2022 - 3
2. 論文標題 「東亜地域の歴史和解問題——中日関係を中心に」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『日本研究』 (遼寧大学)	6. 最初と最後の頁 24 - 42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森川裕二	4. 巻 11
2. 論文標題 「東アジアの連帯に向けた研究回路の構築：周縁的アプローチとしての間主観的秩序」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『21世紀東アジア社会学 特集号』	6. 最初と最後の頁 21-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黄斌	4. 巻 71
2. 論文標題 書評 趙軍『中国における大アジア主義－「聯日」と「抗日」のあいだ』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 孫文研究会『孫文研究』	6. 最初と最後の頁 51 54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢野真太郎	4. 巻 24
2. 論文標題 「華北分離工作以後の日中「経済提携」：日本側アクターの構想を中心に」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東アジア近代史	6. 最初と最後の頁 88-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢野真太郎	4. 巻 43
2. 論文標題 「荒木貞夫の口述記録 満洲事変について」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 近代中国研究彙報	6. 最初と最後の頁 99-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24739/00007499	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢野真太郎	4. 巻 75-9
2. 論文標題 「1930年代の福建省における日中「経済提携」：外務省の対福建省政策と福建省主席陳儀の対応」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国研究月報	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢野真太郎	4. 巻 44
2. 論文標題 「荒木貞夫の口述記録 満洲事変について（続）」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 近代中国研究彙報	6. 最初と最後の頁 44-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 タンシンマンコン・パッタジット	4. 巻 58 (1)
2. 論文標題 「タノーム政権期におけるタイの対中認識と政策の変化 「敵対」と「和解」の論理を中心に」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『東南アジア研究』	6. 最初と最後の頁 3-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 タンシンマンコン・パッタジット	4. 巻 4
2. 論文標題 「1980年代のタイにおける中国認識の転換 - カンボジア紛争とその影響 -」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『次世代論集』	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 鄭成	4. 巻 73
2. 論文標題 「中国建国初期の小中学校における思想政治教育 トレーニングとしての愛国主義教育」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学社会科学研究所『社会科学研究』	6. 最初と最後の頁 81-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34607/jssiss.73.1_81	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鄭成	4. 巻 43
2. 論文標題 「中国建国初期の芸術家の思想統制への順応に関する一考察 映画人蔡楚生を中心に」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 早稲田大学アジア太平洋研究センター『アジア太平洋討究』	6. 最初と最後の頁 103 -121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.57278/wiapstokyu.40.0_79	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤恵美	4. 巻 12
2. 論文標題 「東北朝鮮学校の歴史と現在：東日本大震災を越えて」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 帝京大学外国語外国文化	6. 最初と最後の頁 121-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤恵美	4. 巻 12
2. 論文標題 「地域社会における多文化共生の課題：川崎市ふれあい館の事例研究を通じて」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立教大学 平和・コミュニティ研究	6. 最初と最後の頁 95-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 平野健一郎	4. 巻 第73巻第7号、第8号
2. 論文標題 「《インタビュー》満洲研究から国際文化関係論へ 平野健一郎氏 訪談録」(聞き手: 関 智英、村田雄二郎)(上)、(中)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国研究所『中国研究月報』	6. 最初と最後の頁 14-28; 18-34
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野健一郎	4. 巻 第73巻第9号
2. 論文標題 「《インタビュー》満洲研究から国際文化関係論へ 平野健一郎氏 訪談録」(聞き手: 関 智英、村田雄二郎)(下)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国研究所『中国研究月報』	6. 最初と最後の頁 17-29
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 劉傑	4. 巻 第1巻第2号
2. 論文標題 「中日関係的演变与第二次和解」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 韓国成均館大学《中国社会科学論叢》	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 劉傑	4. 巻 93
2. 論文標題 「中国研究の新視座(特集 新世紀中国研究の挑戦: 明治維新一五〇年、改革開放四〇年)」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代中国 = Modern China: 研究年報	6. 最初と最後の頁 70-72
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 劉傑	4. 巻 5
2. 論文標題 「新アジア学・日本学の創成」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 多文化社会研究 = Journal of global humanities and social sciences	6. 最初と最後の頁 281-285
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白石さや	4. 巻 No.6
2. 論文標題 「人間とテクノロジーのインタラクションをデザインする：シリコンバレーと東京」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『テクノロジーと東京』 EToS (法政大学江戸東京研究センター) 報告書	6. 最初と最後の頁 99 ~ 112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白石さや	4. 巻 57巻2号
2. 論文標題 書評：「福岡まどか；福岡正太（編著）『東南アジアのポピュラーカルチャー アイデンティティ・国家・グローバル化』」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『東南アジア研究』	6. 最初と最後の頁 214 ~ 216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 鄭成	4. 巻 第37号
2. 論文標題 「中国の愛国主義教育の有効性への歴史的考察-1956年の上海鉄道局主催の夏令営をてがかりに」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『アジア太平洋討究』	6. 最初と最後の頁 165 - 179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉村美紀	4. 巻 107号
2. 論文標題 「日中間における学术交流の意義と課題」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『留学交流』	6. 最初と最後の頁 46 - 52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野健一郎	4. 巻 2018
2. 論文標題 「文化」について－満州研究から「国際文化論」へ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 M.L.J	6. 最初と最後の頁 46-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉村美紀	4. 巻 19
2. 論文標題 学生移動を支える国境を越える高等教育とユネスコの対応	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国連研究	6. 最初と最後の頁 101 - 121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉村美紀	4. 巻 211号
2. 論文標題 2030年の高等教育：世界の留学生はどの国で学ぶのか：教育・学生双方の流動化2030年の高等教育：世界の留学生はどの国で学ぶのか：教育・学生双方の流動化が進む多文化共生時代の到来	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 カレッジマネジメント	6. 最初と最後の頁 22 - 25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森川 裕二	4. 巻 21
2. 論文標題 アジアにおける知のプラットフォーム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ワセダアジアレビュー	6. 最初と最後の頁 92-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森川 裕二	4. 巻 5
2. 論文標題 長崎からアジア、そしてグローバルな普遍性を目指す	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 多文化社会研究	6. 最初と最後の頁 255-303
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金香男	4. 巻 21
2. 論文標題 韓国の留学生政策と日本留学経験者による知的交流に関する試論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ワセダアジアレビュー	6. 最初と最後の頁 77-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鄭成	4. 巻 21
2. 論文標題 知的交流をめぐる中国人留学生の意識構造の変化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ワセダアジアレビュー	6. 最初と最後の頁 82-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鄭成	4. 巻 36
2. 論文標題 中ソ文化交流をめぐる中国の青年知識人の受容－日記を手がかりに	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 91-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤恵美	4. 巻 21
2. 論文標題 「東アジア知のプラットフォーム」の背景	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ワセダアジアレビュー	6. 最初と最後の頁 71-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野健一郎	4. 巻 3
2. 論文標題 「国際文化関係史と長崎・平戸」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 多文化社会研究	6. 最初と最後の頁 62-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金香男	4. 巻 17
2. 論文標題 韓国の高齢者と家族の変容 - 「家族扶養・介護」と「扶養・介護の社会化」の狭間で	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代韓国朝鮮研究	6. 最初と最後の頁 42-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野口真広	4. 巻 10
2. 論文標題 若者と東アジアの民主主義：危機と平和の可能性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 早稲田平和学研究	6. 最初と最後の頁 73-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉村美紀	4. 巻 204
2. 論文標題 アジア高等教育圏のダイナミクス	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 カレッジマネジメント	6. 最初と最後の頁 p52-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鄭成	4. 巻 30
2. 論文標題 建国初期の科学研究者によるイデオロギー宣伝協力についての一考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 225-235
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鄭成	4. 巻 20
2. 論文標題 中ソ友好・交流と中国人の対外意識への影響	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アリーナ	6. 最初と最後の頁 180-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森川裕二	4. 巻 4
2. 論文標題 朝鮮半島から見た東アジアの日本の「平和」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 多文化社会研究	6. 最初と最後の頁 475-492
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計60件 (うち招待講演 22件 / うち国際学会 29件)

1. 発表者名 劉傑
2. 発表標題 「近代中国の対外関係と東アジア」
3. 学会等名 防衛省防衛研究所
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 劉傑
2. 発表標題 「史認識與史和解」
3. 学会等名 武漢大學日本與東亞講座系列・武漢大学日本研究センター (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 劉傑
2. 発表標題 「和解学に貢献する歴史学」
3. 学会等名 歴史と和解学ワークショップ・早稲田大学東アジア国際関係研究所 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 矢野真太郎
2. 発表標題 1930年代における日中「経済提携」論の意義
3. 学会等名 国際学術シンポジウム「東アジア近代文明の再検討」(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Pattajit Tangsinmunkong
2. 発表標題 “Orientalism from Within: Representation of Southeast Asia in History Textbooks of Japan, China, and Thailand”
3. 学会等名 Global Asian Studies Joint Workshop, IASA, UTokyo X CoHASS, NTU  Singapore (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Pattajit Tangsinmunkong
2. 発表標題 “The Changing Thai Perceptions of Japan: from Animosity to Popularity”
3. 学会等名 FY2021 Waseda Social Innovation Online Symposium (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 タンシンマンコン・パッタジット
2. 発表標題 「小国のタイから見た中国 敬遠外交と両面外交の一考」
3. 学会等名 北東アジア学会
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 タンシンマンコン・パッタジット
2. 発表標題 「米中和解に対するタイの対応」
3. 学会等名 歴史と和解学国際ワークショップ
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 タンシンマンコン・パッタジット
2. 発表標題 「戦後タイにおける日本認識の変遷 1980年代を中心に」
3. 学会等名 the 5th Asia Future Conference (第5回アジア未来会議)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Miki Sugimura
2. 発表標題 "Global Governance on Higher Education Networks and International Cooperation in the Asia-Pacific Region"
3. 学会等名 Special Tea Break Session, Asia-Europe Institute, University of Malaya (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 杉村美紀
2. 発表標題 「アジアにおける高等教育圏の形成」
3. 学会等名 長崎大学多文化社会学部・多文化社会研究科シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 杉村美紀
2. 発表標題 「国際高等教育の展開と大学教育の課題」
3. 学会等名 日本国際政治学会2021年度研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Miki Sugimura
2. 発表標題 “ Role and Responsibility of International Higher Education: to create an academic arena of learning to share the values and trusts beyond borders ”
3. 学会等名 NAFSA 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Miki Sugimura
2. 発表標題 “ International Higher Education for ESD : Comparison of ASEAN International Mobility for Students and Asia Europe Foundation Regional Conference for Higher Education ”
3. 学会等名 The 12th Biennial Conference of Comparative Education Society in Asia (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鄭成
2. 発表標題 「建国初期の青年党幹部の自己教育」
3. 学会等名 「毛沢東時代の暴力とイデオロギー」ワークショップ、京都大学人文科学研究所共同研究班
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鄭成
2. 発表標題 「1950年代建国初期の知識人の思想的変容」
3. 学会等名 日本現代中国学会関東部会定例研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鄭成
2. 発表標題 「中国建国初期の芸術家の思想統制への順応に関する一考察 映画人蔡楚生を中心に」
3. 学会等名 京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター「20世紀中国史の資料的復元」研究班
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鄭成
2. 発表標題 「中上級学習者の単語理解度の向上を目指して 間違った理解の事例を通じて 」
3. 学会等名 中国語教育学会第19回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鄭成
2. 発表標題 「建国初期中国の社会主義プロパガンダ受容についての一考察 政治性と芸術性の狭間にある映画人 」
3. 学会等名 アジア政経学会2021年度春季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鄭成
2. 発表標題 「中露和解と中国の歴史研究者」
3. 学会等名 「歴史と和解学」国際ワークショップ(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鄭成
2. 発表標題 建国初期における青年知識人の社会主義への思想転向
3. 学会等名 アジア政経学会2021年度春季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鄭成
2. 発表標題 中ソ友好時代の文化的遺産
3. 学会等名 東京大学科研基盤C「中華圏におけるナショナリズムとリベラリズム：連関する大陸中国・台湾・香港」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Emi Kato
2. 発表標題 'Citizens' Movement for Postwar Compensation to and the Rights of Koreans Residing in Japan'
3. 学会等名 The Development of Reconciliation Studies in East Asia, hosted by The KAKENHI project of the creation of the reconciliation studies and the center for the reconciliation studies in Waseda University (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤恵美
2. 発表標題 川崎市桜本地区「まちがミュージアム」プロジェクトの検討（【共通論題】地域社会の国際文化：「歴史総合」を機に考える神奈川の地域史）
3. 学会等名 日本国際文化学会全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鄭成
2. 発表標題 「1950年代の中国における青年知識人の「平和的」転向について」
3. 学会等名 20世紀メディア研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉村美紀
2. 発表標題 日中間学術交流の意義と役割
3. 学会等名 第12回中国国際教育年会・日中高等教育フォーラム「日中高等教育の連携と展望」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黄斌
2. 発表標題 「日本の新聞メディアにおける「中華思想」の変遷」
3. 学会等名 第5回アジア未来会議（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤恵美
2. 発表標題 「多文化が共生する地域社会は誰の社会か？：川崎市ふれあい館の事例研究」
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平野健一郎
2. 発表標題 長崎大学大学院多文化社会学研究科発足記念シンポジウム「新アジア学・日本学の創成」討論報告
3. 学会等名 長崎大学大学院多文化社会学研究科発足記念シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 劉傑
2. 発表標題 習近平時代の中国と日中関係－「知のプラットフォーム」を目指して
3. 学会等名 早稲田大学社会科学部稲門会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 劉傑
2. 発表標題 日本外交官の中国認識と対中国政策
3. 学会等名 台湾中国文化大学・one asia財団主催 全国大学生と大学院生研修塾（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 劉傑
2. 発表標題 アジア通外交官芳澤謙吉のこと
3. 学会等名 芳澤謙吉記念館（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 劉傑
2. 発表標題 知のプラットフォームとしての現代日本学
3. 学会等名 新アジア学・日本学の創成 - 長崎からアジア、そしてグローバルは普遍性を目指す（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 劉傑
2. 発表標題 中国通外交官石射猪太郎をめぐる人びと
3. 学会等名 霞山会創立70周年記念シンポジウム「人物からたどる近代日中関係史」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 劉傑
2. 発表標題 日中歴史問題と和解学
3. 学会等名 愛知大学国際中国学センター主催ワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 劉傑
2. 発表標題 日中歴史対話と和解学
3. 学会等名 ICCS (愛知大学国際中国学センター) 国際シンポジウム「新時代の日中対話の試みー現代中国学方法論の構築を求めて」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 劉傑
2. 発表標題 中国の大国化と歴史観の変遷 歴史対話を手がかりに
3. 学会等名 成均館大学成均中国研究所と早稲田大学現代中国研究所共同シンポジウム「習近平時代をどのように解釈するか」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Miki Sugimura
2. 発表標題 Equity and Inclusion in Global Citizenship Education in the Era of Migration
3. 学会等名 Comparative Education Society of Hong Kong Annual Conference 2019 (Education University of Hong Kong) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉村美紀
2. 発表標題 日中教育文化交流の意義と役割 アジアにおける国際教育連携を通じて
3. 学会等名 日中平和友好条約締結40周年記念学術大会(華東師範大学)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 杉村美紀
2. 発表標題 日中両国の教育交流と協力
3. 学会等名 日中平和友好条約締結40周年記念フォーラム「日中教育交流を振り返る」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Miki Sugimura
2. 発表標題 Enhancing Global Academic Mobility as University Social Responsibility
3. 学会等名 International Conference on University Social Responsibility (National Chi Nan University, Taiwan) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白石さや
2. 発表標題 人間とテクノロジーのインタラクションをデザインする：シリコンバレーと東京
3. 学会等名 法政大学江戸東京研究センターワークショップ (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白石さや
2. 発表標題 基調講演 大学院におけるフィールドワーク
3. 学会等名 日本国際文化学会 第一回大学院生研究交流会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白石さや
2. 発表標題 ポピュラーカルチャーとアジア
3. 学会等名 2018年度ワンアジア財団寄付講座 「アジア共同体ー多角的な視点から学ぶ」フェリス女学院大学 国際交流学部（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Saya Shiraishi
2. 発表標題 Manga Literacy and Globalization
3. 学会等名 The Fourth Global Creative Industries Conference Zhejianga Gongshang University (浙江工商大学) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Saya Shiraishi
2. 発表標題 Manga and Anime: Japan's "The Day After" Literature goes abroad and into the 21st century
3. 学会等名 Japanese animation and European contexts: International dynamics, local receptions A multidisciplinary symposium Ca'Foscari University of Venice (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金香男
2. 発表標題 日本への留学生と彼らのその後 中国・韓国・台湾の比較の観点から (韓国の事例)
3. 学会等名 日本国際文化学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鄭成
2. 発表標題 日本への留学生と彼らのその後 中国・韓国・台湾の比較の観点から（中国の事例）
3. 学会等名 日本国際文化学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鄭成
2. 発表標題 中ソ文化交流をめぐるー中国の青年知識人の受容について
3. 学会等名 アジア政経学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤恵美
2. 発表標題 日本への留学生と彼らのその後 中国・韓国・台湾の比較の観点から（日本の事例）
3. 学会等名 日本国際文化学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Emi Kato
2. 発表標題 Screen Memories of War and Colonialism in Japan
3. 学会等名 EU-Japan Forum（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黄斌
2. 発表標題 アジア主義・ナショナリズムとマルクス主義の狭間 李大釗の葛藤
3. 学会等名 関口グローバル研究会・渥美財団主催「第4回アジア未来会議」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kenichiro Hirano
2. 発表標題 "Asian Studies in Asia: the Japanese Case"
3. 学会等名 Harvard-Yenching Institute Roundtable on "Asian Studies in Asia" (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 劉傑
2. 発表標題 中日關係史中的親日派與親華派：兼談日本外交案中的汪精衛
3. 学会等名 中央研究院近代史研究所(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Saya s. Shiraishi
2. 発表標題 Manga and Anime: Japan's "The Day After Literature" goes abroad and into the 21st Century
3. 学会等名 A multidisciplinary symposium "Japanese animation and European contexts: International dynamics, local receptions" Ca' Foscari University of Venice, Department of Asian and North African Studies (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Miki Sugimura
2. 発表標題 International Cooperation and Asian Higher Education Zone
3. 学会等名 Annual Conference on Association of International Education Administrator 2018 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Miki Sugimura
2. 発表標題 Migration and Roles of Comparative Education: Nation-State and Transformation of Education Policy
3. 学会等名 The 6th Worldwide Forum for Comparative Education (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鄭成
2. 発表標題 The Soviet Union 's Influence on China 's public Perception of other Nations
3. 学会等名 "Russia 's Relations with Northeast Asia " (Institute of Contemporary Asia Studies, Temple University, Japan Campus) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森川裕二
2. 発表標題 北東アジアとトランプ後の国際秩序 - 実証・実在論の相補的視座から
3. 学会等名 北東アジア学会第23回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 加藤恵美
2. 発表標題 朝鮮学校を対象とした大学生の演習手法
3. 学会等名 日本国際文化学会2017年度大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計31件

1. 著者名 劉傑、帰泳濤、早田幸など	4. 発行年 2021年
2. 出版社 早稲田大学出版部	5. 総ページ数 394
3. 書名 『New Perspectives on International Studies in Asia-Pacific』	

1. 著者名 林泉忠、村田雄二郎、劉傑	4. 発行年 2021年
2. 出版社 五南図書出版	5. 総ページ数 450
3. 書名 『中日国力消長與東亜秩序重構』	

1. 著者名 浅野豊美、劉傑ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 360
3. 書名 『和解学の試み—記憶・感情・価値』	

1. 著者名 劉傑	4. 発行年 2022年
2. 出版社 National Institute for Defense Studies	5. 総ページ数 103
3. 書名 『The Security Environment in Modern East Asia』	

1. 著者名 劉傑、鄭成、黃斌、矢野真太郎、タンシンマンコン・パッタジットほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 388
3. 書名 『和解学叢書5（和解のための新たな歴史学）』	

1. 著者名 劉傑、中村元哉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 244
3. 書名 『超大国中国のゆくえー文明観と歴史認識』	

1. 著者名 浦田秀次郎、劉傑 ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 206
3. 書名 Sustainable Development Disciplines for Humanity	

1. 著者名 徐顕芬、李臻共、森川裕二ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東方出版中心	5. 総ページ数 300
3. 書名 『大夏世界史研究：日本工作站文集』	

1. 著者名 Peking University-Waseda University Joint Research Initiative, Pattajit Tangsinmunkong	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Waseda University Press	5. 総ページ数 394
3. 書名 The new perspectives on international studies in Asia- Pacific.	

1. 著者名 小池誠、施利平和編、金香男ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 338
3. 書名 『家族のなかの世代間関係』	

1. 著者名 西野純也、金香男ほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 352
3. 書名 『激動の朝鮮半島を読みとく』	



1. 著者名 Devesh Kapur, Lily Kong, Florence Lo, David M. Malone, Miki Sugimura and et.al	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Oxford University Press	5. 総ページ数 888
3. 書名 The Oxford Handbook of Higher Education in the Asia-Pacific Region	

1. 著者名 Nobuko Kayashima, Kazuo Kuroda, Yuto Kitamura, Miki Sugimura and et.al	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 365
3. 書名 Japan's International Cooperation in Education	

1. 著者名 櫻井勇介、文景楠、佐藤亮司、杉村美紀ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 上智大学出版	5. 総ページ数 268
3. 書名 『日本で出会う世界：国内で実現する短期集中型国際研修』	

1. 著者名 鄭成ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 530
3. 書名 『中国年鑑2020年』	

1. 著者名 外村大、加藤恵美ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 332
3. 書名 『和解をめぐる市民運動の取り組み』	

1. 著者名 李永淑、加藤恵美ほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 272
3. 書名 『モヤモヤのボランティア学：「私」「他者」「社会」の交差点に立つアクティブラーニング』	

1. 著者名 劉傑ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 -
3. 書名 『人とことば』	

1. 著者名 劉傑ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 国書刊行会	5. 総ページ数 -
3. 書名 『人物からたどる近代日中関係史』	

1. 著者名 森川裕二ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 329
3. 書名 『<周縁>からの平和学 アジアを見る新たな視座』	

1. 著者名 金香男ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 298
3. 書名 『知りたくなる韓国』	

1. 著者名 鄭成ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 146
3. 書名 『スターリンの極東政策：公文書資料による東北アジア史再考』	

1. 著者名 杉村美紀ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 上智大学出版	5. 総ページ数 268
3. 書名 『日本で出会う世界ー国内で実現する短期集中型国際研修-』	

1. 著者名 劉傑	4. 発行年 2018年
2. 出版社 新世界出版社	5. 総ページ数 279
3. 書名 『寮生 後楽寮を生きる人々』	

1. 著者名 鄭成	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 252
3. 書名 『満洲の戦後 継承・再生・新生の地域史』（「大連 中国における植民地統治の記憶」を執筆）	

1. 著者名 平野健一郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 -
3. 書名 「平戸におけるジョン・セーリス 一七世紀の国際移動と国際交流」（『長崎 - 記憶の風景とその表象』所収）	

1. 著者名 劉傑	4. 発行年 2017年
2. 出版社 台湾広場文化	5. 総ページ数 -
3. 書名 中國的強國構想：從甲午戰爭至今天	

1. 著者名 劉傑	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 -
3. 書名 「石射猪太郎と日中戦争」(『“日中戦争”とは何だったのか 複眼的視点』所収)	

1. 著者名 劉傑	4. 発行年 2017年
2. 出版社 稲郷出版社	5. 総ページ数 -
3. 書名 中日戦争前の関係改善與「中国通」外交官 (『近代中日関係史新論』所収)	

1. 著者名 白石さや	4. 発行年 2018年
2. 出版社 延辺大学出版社	5. 総ページ数 -
3. 書名 「若者達が育てたマンガ」(『日本語文化研究』第五輯所収)	

1. 著者名 野口真広	4. 発行年 2017年
2. 出版社 早稲田大学出版部	5. 総ページ数 334
3. 書名 植民地台湾の自治	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鄭 成  (Zheng Cheng)  (20386668)	兵庫県立大学・環境人間学部・教授    (24506)	
研究分担者	黄 斌  (Huang Bin)  (50755775)	早稲田大学・地域・地域間研究機構・その他(招聘研究員)    (32689)	
研究分担者	杉村 美紀  (Sugimura Miki)  (60365674)	上智大学・総合人間科学部・教授    (32621)	
研究分担者	加藤 恵美  (Kato Emi)  (60434213)	帝京大学・外国語学部・准教授    (32643)	
研究分担者	白石 さや  (Shiraishi Saya)  (70288679)	東京大学・大学院教育学研究科(教育学部)・名誉教授    (12601)	
研究分担者	劉 傑  (Liu Jie)  (80288018)	早稲田大学・社会科学総合学院・教授    (32689)	
研究分担者	金 香男  (Kim Hyang Nam)  (80410059)	フェリス学院大学・国際交流学部・教授    (32711)	
研究分担者	森川 裕二  (Morikawa Yuji)  (90440221)	長崎大学・多文化社会学部・教授    (17301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	矢野 真太郎  (Shintaro Yano)  (60878784)	早稲田大学・社会科学総合学院・次席研究員    (32689)	
研究分担者	タンシンマンコン パッタジット  (Tangsinmunkong Pattajit)  (10844136)	早稲田大学・社会科学総合学院・講師（任期付）    (32689)	
研究分担者	野口 真広  (Noguchi Masahiro)  (30386560)	早稲田大学・政治経済学院・助手    (32689)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関